《福井市の公民館に思う》

公民館 と 私

元生涯学習課長　　氣谷　和彦

2005 年 4 月に私は福井市教育委員会生涯学習課（当時）の課長を拝命しました。もとより浅学非才、そのうえ、それまでの仕事の上で教育委員会事務局には全く無縁でした。振り返りますと、我ながら頼りない課長であったと思わざるをえないのですが、その後二年間、各公民館の皆様には実に大変なお世話になったことは感謝に堪えません。

そのころは、2006 年 2 月の福井市、清水町、美山町、越廼村の合併にむけて、公民館の配置や運営体制等についても事前調整が続けられて、私が課長を拝命した年は最終段階にありました。2006 年度は、順化公民館と併設されていた中央公民館（当時は生涯学習課長が館長でした。）が、その講座等の事業拡充を図りながら現在の「アオッサ」の 2007 年 4 月完成と同時に同施設内に移設することとなり、職員配置等の諸課題を最終的に決定しなければならない時期でもありました。さらに、当時は各地区において住民の皆様による様々な地域づくりの諸活動が非常に活発になってきていました。それは大変素晴らしいことなのですが、これに伴い活動拠点としての公民館の役割がますます大きくなってまいりました。そのことが館長・職員の皆様にとっては大きな負担となる面があり、このため、生涯学習課は負担軽減のための方策を打ち出す必要があったのです。

こうした課題は、既にそれまでの課長や課員によって着実に解決のための取組が進められてきたところでしたが、新米課長にとりましては実に大きな課題であり、当時はそれなりに悩んだり迷ったりの日々でありました。しかし、先輩方のアドバイスもあり、課員には引き続き熱心に取り組んでもらいましたし、また何よりも各地区の館長・職員の皆様方の全面的なご指導・ご協力をいただきました。私の力不足で成果としては不十分でしたが、皆様のご支援により私なりに精いっぱい頑張ることができたと考えております。

今、私の手元に『福井市公民館五十年誌（福井市公民館連絡協議会、2011 年）』があります。各地区のさまざまな活動を見ることができます。当時も、館長さん、主事さん、管理人さんの献身的な活動を通して感じられる各地区の歴史の重さと、未来を創ろうとする熱意は、否応なく私どもを真剣にさせてくださったものと思っています。また、恥ずかしながら課長になって初めて知った「公民館の歌（自由の朝）」。あの敗戦の廃墟から立ち上がり、平和で自由な社会を築こうとする人々の決意や願いがその歌に込められていると思いました。人と人とが尊重し合い、手を携えてより良い未来を創るために公民館もまた大事な役割を担うのだという使命感、それもまた福井市の公民館活動にも引き継がれています。

２年間という短い期間でしたが、公民館の諸活動に直接触れさせていただき大変ありがたく思っています。これからも、福井市の公民館は栄光ある伝統を引き継ぎ、学びたい・交流したいという人々の声に応える公民館であり続けていくでしょう。